

母校文化祭「食」で応援

母校のイベントを「食」の力で盛り上げよう。四国中央市の川之江高校PTAが25日の母校文化祭で、飲食店を営む卒業生らが作った持ち帰り弁当の「マルシェ」を開いた。採算は度外視。店主の心意気が詰まったスペシャルメニューで現役生を元気づけた。

例年生徒に人気のあった母校PTAが市内各店に参加を食バザーが新型コロナウィル 呼びかけた。応じたのは弁当スの影響で中止になった。9店、スイーツ3店。予約制め、バザーを担当していた同 値段は500円に統一し

OB店主ら弁当提供

た。メニューには商品写真とともに店主の高校時代の写真やメッセージを添えた。

同市金生町下分のすし店味将は「ちらし二段重弁当」を提供した。主役は味に深みのある赤酢を使ったちらしずし。具材に素材の個性を生かした蒸しえびや焼き穴子、栗の甘露煮などをちりばめつつ、まろやかな味付けでまとめた。おかずの容器には自身魚の南蛮漬けや、ナスの煮び

ちらし二段重弁当を提供した味将の石川さん



たしなど10品目以上を詰め、ツトを売ると生徒の行列ができたという。

在学中はバスケットボールに打ち込んだという店主の石川将太郎さん(45)は、大会が「まい」と感嘆の声が次々と上

味と心意気 在校生笑顔

なくなった現役生を思いつつ「自粛ムードの中で開催する数少ないイベント。何か力になりたかった。専門店のすしを食べて、いい思い出にしてほしい」と願った。

焼き肉店「泰輔29」(同市川之江町)の特製サーロイン丼は黒毛和牛を惜しみなく使用。中国菜館「成都」(同市妻鳥町)の「油淋鶏(ユウリンチー)お弁当」はメインに加え、マーボー豆腐やシューマイも添えた。ほかの店も持ち味を発揮。校内で予約チケットを売ると生徒の行列ができたという。

PTAの高橋英理子会長は、予想以上のいい反響で驚いたとし「店側から現役生を元気づけたいという思いがひしひしと伝わってきた。生徒にも地域のありがたさに気づいてほしい」と語った。

川之江高校の文化祭で開いたマルシェのメニュー



弁当を食べて表情を緩める生徒たち

(雲出浩二)